

単独作業時の労働災害について

株式会社 ニチエービルテック 末 松 武

私たちの仕事はお客様からのご依頼内容、現場状況によって様々なものがありますが、その多くの場合において何かしらの作業を行います。体一つで目視点検するだけの時もあれば、脚立やハシゴを使う高所作業、床下に潜っての作業等もあります。

程度に差はありますが常に、労働災害が起きる可能性を持っています。

自分のことを事例として挙げるのはお恥ずかしい限りですが、先日とある住宅でコウモリの駆除作業を行いました。その現場はお客様が賃貸用で所有しているお宅で、現在は誰も住んでおりません。

私は一人で作業に行きました。

いわゆる単独作業です。

六尺の脚立をハシゴ状に伸ばし外壁に立て掛け、屋根の破風の間隙からのコウモリの追い出し作業を行おうとしましたが、忌避スプレーを打ち込む際にバランスを崩し、脚立から転落してしまいました。幸いにも足から着地し尻もちをついただけで、尻ポケットにいていたiPhoneは私の荷重により絶命しましたが、私自身はお尻が少し痛いのと足がしびれたくらいで、大きな怪我には至りませんでした。

しかしながら、例えば私が無残にも腰や頭から落ちていたらどうでしょう。

もしも頭を打ち気を失っていたら...

現場にはお客様もいません。

誰かが通りかかり発見されなければ、怪我次第では手遅れになっていたかもしれません。

そう思うと少しゾットする事案でした。

我が身をもって体験したことなので、単独作業の危険性について考えたいと思います。



単独作業の危険性としてまず挙げられるのは、想定外のアクシデントや事故に対しての対応が困難なことです。転倒、墜落などの事故が起きた時に一人では発見が遅れてしまい、命に関わるリスクが高くなります。また作業中に急に体調を崩したり、夏場では熱中症にかかった場合の救急搬送の手配などは一人ではできない事が考えられます。

単独作業では、周囲に目がないため、やるべき確認作業などの省略や危険行為をしてしまうケースが多くあります。慣れからくる危険性の軽視で誤った自己判断をしてしまいがちになります。危険を軽視した行動はミスにつながり、時には大きな事故を引き起こしてしまいます。

単独作業で特に危険なのはやはり高所作業になります。

ハシゴや脚立に登っての作業はバランスを崩しやすく、下での押さえや補助があるのと無いのでは危険性がかなり違います。特に屋根などの高所にハシゴを掛けての作業はちょっとしたふらつきで大きくバランスを崩し、そのままハシゴごと転倒するなどの危険があります。

単独作業では複数人での作業に比べ、事故やアクシデントが起きる可能性やそれが重大な労働災害につながる可能性が非常に高くなります。

私たちの仕事はその作業内容から建築工事などに比べ、複数人で行うよりも単独で行うときが多くあるのではないのでしょうか。

しかしながらその作業では脚立やハシゴを使っての高所作業や、床下に潜っての作業、電動工具を使うものもあります。また普段から使用している薬剤も、時として想定外のアクシデントを起こす可能性もあります。

昨今の人手不足が深刻な状況の中、全ての現場に複数人に向かうなどは到底無理なことではありますが、スケジュール調整の際に一人でも大丈夫と安易に考えず、万が一の備えとして、二人一班として動く習慣をつけるのも良いかと思います。また単独で作業を行う際にはいつも以上の確認、注意をはらう必要があると思います。

最後になりますが、この記事が少しでも皆様の安全管理に繋がり、毎日の安全業務のお役に立てましたら幸いです。